

東京藝術大学

スーパ クロン 文化財展

オリジナルの文化財と同素材・同質感を目指し人の手技や感性を取り入れて仕上げることで技法や文化的背景、精神性、芸術のDNAに至るまで継承する、国際社会から大きな注目を浴びる革新的文化継承手法。

2020年10月9日(金) - 11月3日(火)祝

開館時間 / 午前10時 - 午後5時

※入館は閉館の30分前までとなります。

旧大連航路上屋

〒801-0841 北九州市門司区西海岸1丁目3-5

入館料：無料

主催：北九州市 共催：東京藝術大学
特別協力：東京藝術大学COI拠点、株式会社IKI

会期中無休

撮影OK

フラッシュ・動画・
機材使用不可



令和2年度 文化庁 国際文化芸術発信拠点形成事業

写真提供 / ユニフォプレス

芸術は科学で甦る



スーパークローン文化財とは

文化財は古くより「保存」と「公開」の両立が求められています。劣化する文化財の保存には「非公開」が最良の選択ですが、公開されないと価値が共有されず本来の存在意義が損なわれてしまいます。この問題を解決するために、東京藝術大学では芸術と科学技術の混在による高精度な文化財複製「クローン文化財」の技術を開発しました。

「クローン文化財」は、原本の詳細な調査を行い、最先端のデジタル技術と伝統的なアナログ技術を駆使して、絵具や基底材などの素材・表面の凹凸・筆のタッチまで忠実に再現しています。人の手技や感性を取り入れて仕上げることで、オリジナルと同素材・同質感

であるだけでなく、技法、文化的背景、精神性など、芸術のDNAに至るまでを再現する、まさしく文化財のクローンなのです。また、現在はオリジナルの文化財を超越し新たな価値を創造する「スーパークローン文化財」へと発展し、流出または消失した世界中の文化財も復元可能となりました。従来はオリジナルを所有すること、つまり文化の独占に価値が置かれてきましたが、「スーパークローン文化財」は、文化財という世界共有の財産を守り伝える新技術として文化の共有と平和の実現を可能にし、保存(学術)と公開(経済)が両立できる新たな文化の継承方法として、国際社会から大きく注目されています。

